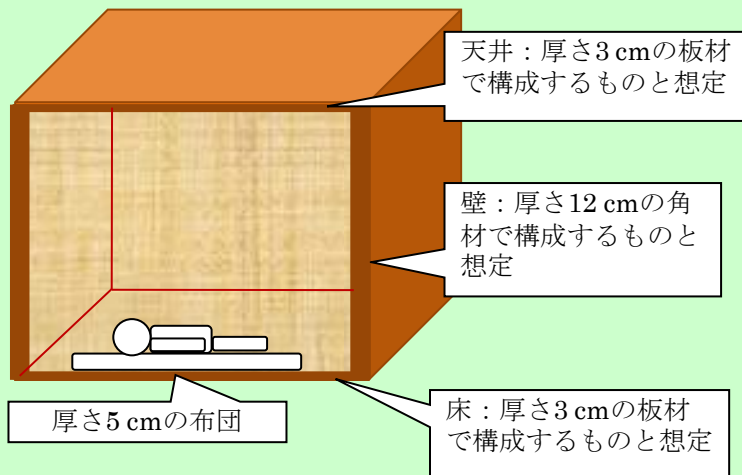


木材で囲まれた居室を想定した場合の試算結果

■試算の条件

6面が約414 Bq/kg (497 Bq/kgの含水率20%)の木材で囲まれた4畳半の部屋を想定



■試算結果

1) 1時間あたりの被ばく量：**0.0017 μ Sv/h**

2) 1年間あたりの被ばく量：**0.012 mSv/y**

(=0.0017 μ Sv/h \times 24 h \times 0.8(※) \times 365日)

※IAEA-TECDOC-401を参考に、居住者は1日のうち80%を屋内で過ごすとして仮定

備考：試算はIAEA-TECDOC-1376に基づいて実施。

【注】本試算では、12 cmの角材を並べた壁をもつ部屋を仮定しているが、一般的な日本の木造住宅(軸組住宅)では部分的にしか角材を使用しないことから、木材の使用量は本試算におけるものよりかなり少なく、そのため、被ばく量もさらに少ないと想定される。

(参考)日常生活と放射線

上記試算による追加被ばく量(年間)

0.012 mSv/y

国内の一人あたりの天然の放射線による被ばく量(年間)

2009文部科学省「放射線と安全確保」より(事故前)

1.5 mSv/y

国内の一人あたりの天然の放射線による被ばく量の差(年間)
(県別平均値の最大県と最小県の差)

放射線医学総合研究所調べ(1988年)

0.4 mSv/y

東京都新宿区で観測された1時間の放射線量を年間に換算した場合
(平成23年12月20日時点の測定値0.053 μ Sv/hを使用)

0.46 mSv/y